



りっけん いわて 県連通信 No.9 2022.3.17号



3/16 23:36
県内最大震度
5強

それぞれの
11年目

～忘れないこと、伝えること。経験を教訓に。～

東日本大震災から11年目を迎えた3月11日、県内の被災地は鎮魂の祈りに包まれた。政府主催の追悼式が昨年で打ち切りとなる中、県内では各被災地で追悼式が開催され、このうち釜石市の式典には小沢一郎衆議院議員と木戸口英司参議院議員が参列し、犠牲者の冥福を祈った。また、国会用務のため東京にいた横沢高德参議院議員も、国会前から黙とうを捧げた。



震災から11年目を迎えたこの日、木戸口参議院議員が想いを語った。「あの日、県庁で勤務していた私は、現地から送られてくる情報を前に、愕然としながらも、達増知事のもとで1人でも多くの人を助けたいとの一心で、仕事をしていたことを思い出します。以来、震災からの復興は、私の心の真ん中にあります。被災地を訪れては課題をお聞きし、その声を国に届け、被災者の立場に立った制度の改善と支援の強化を要求して参りました。被災地の皆さんの努力と全国・世界中からの応援で、ハード面など目に見える復興はここまで成し遂げることができました。しかしその一方で、こころの復興には至らない人も多くいます。震災を経験しない小学校の低学年でこころのケアが必要な子供たちが増加するなど、大人たちの経済状況やこころの問題が子供にも影響するケースが目立ちます。また、移転元地の活用はこれからのまちづくりの大きな課題となっています。こうした問題に加え、主力魚種の深刻な水揚げ減少で水産漁業は厳しい現状にあります。地域経済に暗い影を落とす中に、コロナが直撃しています。なりわいの再生、そして、加速度的に進む人口減少への対策が急務です。また、千島海溝・日本海溝巨大地震の発生が切迫しており、その津波被害想定は東日本大震災津波を大きく上回るとされています。しかし、政府による対策は、必要な財源を含め今後の検討とされています。

『忘れないこと、伝えること。経験を教訓に。』が今こそ大事です。想定外をなくし、一人の犠牲者も出さないためにやるべきことをやる。それは、あの日岩手にいたものとして果たすべき使命だと思ひ定め、今後も復興からその先の希望へ、全力で取組んでまいります。」